こうして教会は、ユダヤ、ガリラヤ、サマリヤの全地にわたり築 き上げられて平安を保ち、主を恐れかしこみ、聖霊に励まされて 前進し続けたので、信者の数がふえて行った

使徒9章31節

JCPN

NEWS LETTER 2025

今年も早、3分の一が終わり、夏に向かって沢山の教会行事が続きます。

主の教会にお仕えする愛する皆様方への感謝とお伺いを申し上げます。

今年のJCPNアニュアルカンファレンスホストは、ミズリー州セントルイスにあるJapanese

International Harvest church(生方牧師)です。大陸東側での初めてのカンファレンスで、申し込み者総数が、昨年の119名を超え、過去最大139名となりました。「大きいことはいいことだ」というようなコマーシャルが昔ありましたが、それが目的ではありません。このカンファレンスの目的は、参加者が心を合わせ、新たな教会開拓への希望とビジョンをもって準備をしてゆくためです。それには、現在JCPNに加盟している諸教会の牧師・女性伝道者・教会リーダーの方々が、キリスト愛

を分かち合い、助け合い、励ましあって、主にある一致の霊を求めてゆくことです。 幸い、主は、私たち参加する者の心を整え、1年一度の再会を待ち遠しくしているもの達を集めてく

ださっています。それゆに、多くの方々が、この催しを心待ちしていることをよく聞くからです。今年の参加者の特記すべきことは、現在、新規教会開拓準備を祈り、ほぼ毎月、西海岸から当地に飛び、集会を導かれる金田、稲富両牧師にとって、フロリダとバージニアから、その地のリーダー方が初参加くださることです。主はなんと私たちたちを励ましてくださることでしょうか。

このカンファレンスの特徴の一つは、伝道者家族を応援し、送り出してくださる各教会の皆様の熱い祈りがあることです。教会は祈りによって生み出され、建てあげられることが最も重要です。日本人ばかりでなく、世界中の人々の救いを求め、主に祈るとき、主はその祈りにお答えくださいます。 JCPNの教会開拓に参加してくださる諸教会は、互いが比較しあうことなく、協力しあい、魂の救いという一つの目標に向かって、常に前向きに取り組んでいます。このフォーカスは、使徒パウロを通して、全世界に福音が広がった同じビジョンと実践です。

伝道者家族、教会リーダーがともに集うことで、子供たち孫たちへの信仰の継承を目指し、祈ってゆ く楽しみなひと時でもあります。

初代エルサレム教会に起こった聖霊の躍動が、今年のカンファレンスの上に、力強くあらわされることを期待しつつ。 横井マイク

Crossover Japanese Church of Calgary

谷口みゆき

2024年度は、ダビデが神の箱を運んだ時に喜び踊ったように(IIサムエル記6:14)、私たちも「喜びあふれた礼拝を捧げる」ことをモットーとして歩んできました。

この1年間、主に礼拝説教はOnlineで色々な牧師先生のメッセージを聴いてきました。2025年度は、それに加えて、一人一人が積極的に礼拝の中で、主がそれぞれの生活の中でどのように働いてくださったか、またくださっているかを証していくことを実践的に行っていきたいと願っています。毎回、礼拝の中で、霊的ポトラックとして各自の証やメッセージを分かち合いながら、霊的に成長していくことをモットーとしていきたいと導かれています。



ジェシカ歓送会



高校生8名、日本伝道旅行



2024年クリスマス

ですからあなたがたは、現に行っているとおり、互いに励まし合い、互いを高め合いなさい



今年一年もピッツバーグ国際日本語教会を神様が守ってくれたことを心から感謝したします。一年間の礼拝はほぼオンラインで、私は3回(8月、12月、5月)だけピッツバーグに行き、対面の礼拝を実施しました。しかし、そんな状況の中でも礼拝を継続できるだけでなく、新しい参加者を与えてくれたり、月に一度は信徒が自主的に集まるようになったり、洗礼者まで与えてくれたことは、神様の恵みに他ならないと思います。

私達の教会ではこのようなオンライン主体になる前から、あまり信徒教育的なことは言わないようにしています。礼拝出席も自由であり、他の教会に所属することも可能であり、献金についてもほとんど触れません。いつも、「日々、神様からの恵みを受け取って、喜んでください。それが、神様の栄光をもっとあらわすことです」と言い続けているだけで、ゆるく結びついた教会です。ずっとそれでいいのか悩んでいましたが、高原剛一郎先生も「エクレシアとは教えるところではなく、集まるところ」だと言っているので、こんな教会でも神様は許してくれるのだと思います。

ただ、こんな感じなので献金はあまり集まりません。私も体の調子が完全でないので働くことができず、妻がフルタイムで働いてくれてなんとか生活が維持できます。にもかかわらず、不思議なことに妻は少しも文句も言わず、「Highway to Heaven」という古いクリスチャンドラマを見ながら、「そうよ私達も御手の中にいるので大丈夫よ」とニコニコしています。これこそが神様の最大の恵みだと思います。本当に心から感謝です。

ヘブル人への手紙13章9節に「食物の規定によらず、恵みによって心を強くするのは良いことです」と書かれています。クリスチャンにとって大切なのは聖書の教えを守ろうとすることではなく、まず神の恵みを喜び受け続けることだと思います。そして、恵みが蓄積されていったら、コップの水が溢れるように自主的に神の言葉に従い、良い行いをするようになるのだと信じています。 私ができることは限られていますが、これからの一年も苦難を含めてすべてが主の恵みと受け取

り、喜んで生きればそれでいいと考えています。



昨年、2024年10月に私たちの教会は、創立15周年を迎えました。この15年間で、礼拝場所が5回変わりました。しかし、主日礼拝を一度も休むことなく続けられていることは、神様の奇跡と祝福です。また、私が急にコロナになって、礼拝で説教ができない時も、JCPNの他教会の牧師が説教ビデオを作成して送って下さいました。このJCPNの祈りとサポートがあるからこそ、健全な教会活動が長く続けられると実感しています。

この1年間も、神様は多くの新しい人を教会に連れてきてくださり、新しいことを始めて下さいました。特に7月には、"Connect Youth Retreat"と題して、将来を担う高校生たちを中心に集めて、リトリート(修養会)を行いました。カリフォルニア州から市川祥牧師、恵子ご夫妻をお招きし、私たちの教会だけではなく、他州や日本からも参加者が与えられました。2泊3日のスケジュールで、み言葉に触れ、祈り、賛美し、寝食を共にしました。教会の外にも飛び出し、4,348mのブルースカイ山や、山と川に囲まれたアスレチックコースで汗を流し、コロラド名物のピザも頬張りました。主が創造された美しい自然の中で楽しみ、喜び過ごす体験をたくさんしました。アメリカの地理的中心で、標高1,600mと高所に位置するデンバーで、アメリカや日本の各地からの若者たちが神によって集められ、東西がつながり(Connect)神の愛を体験しました。この体験をそれぞれの場所に持ち帰り、彼らがこの世に福音を伝える神の戦士として働き続けることを祈って止みません。

2020年から始まったIST(青年ライフグループ)も、1ヶ月に2回のペースで教会員の方の家に集まり、食事、聖書の学び、祈り、交わりの時を持っています。興味深いことに、参加する人はここ数年、男性が多かったです。しかし、4月に仕事で引っ越してきた20代の女性が、参加しはじめ、今から主が新しい流れを起こしてくださることを期待しています。また、先日は、コミュニティカレッジを卒業した日本人留学生の大輝兄のお祝いもしました。

アメリカは5月が卒業シーズンです。今年は礼拝の中で大学、大学院を卒業した3人をみ言葉と祈りで祝福しました。彼らが、学校で学んだこと、神に与えられた賜物を生かして、次のステップに進んでいくことを祈っています。

12月には、礼拝後にファミリークリスマスを行い、ゲームなどで楽しい時を持ちました。今年はいろいろなお店から協賛を頂き、豪華賞品のプレゼントもあり、さらに盛り上がりました。

また、母の日ランチ、父の日ランチ、独立記念日BBQ、冬の餅つきなども恒例のイベントとして、教会外の人たちに声をかける機会に用いています。







お祈りの課題

- 1 地域の人たちへの宣教拡大
- 2 次世代を担う若者たちの霊的成長と宣教への送り出し
- 3 求道者の救い

暑中お見舞い申し上げます!灼熱のアリゾナで宣教しながら「これは誰かが祈っているからだ」と何度も痛感させられています。 皆様のJCPNへのお祈りとご支援をありがとうございます。

大学近くにある教会なのに、学生伝道をする人材がなかなか育ちません。何度もあきらめそうになりましたが、ようやく学生伝道チームが起こされました。復活祭に向けて礼拝出席者も増え、うれしい悲鳴でした。手狭になった駐車場が賃貸料無料で二倍に広がるような奇跡もありました。

・・・そしたら、壁にぶつかりました・・・最初はサタンの仕業だ!と思っていたのですが、牧師自身が問題源になっている事に気がつきました。私が教会をコントロールしすぎていたのです。真の主任牧師であるイエス様に一人一人を委ねる牧会をしていませんでした。そのことを悔い改め、念願だったJCPNカンファレンスを出席を自粛し、主と信徒リーダーの手に教会を委ねて休暇を取り、人生の優先順位を再構築し始めました。教会拡張のために祈っていたら、牧師の「拡張」が不可避に・・・主のなさりたいことが完成するようにお祈り下さい。



- 1. カリフォルニアより市川牧師が来られ、初のECユース開催計画をシェアして下さいました。12月29日から1月1日まで180名の日本語教会中高生が集まりキャンプを行います。会場に比較的近い教会の一つとして、JIBCユースもファンドレイジングをして参加する予定です。
- 2. 12月28日から12月31日まで、フェニックスで初のUrbanaカンファレンスが開催されます。日本を含む世界中から、18歳以上の宣教に燃える1万人がダウンタウンに集まります。主を信頼してJIBCも前払いでチケットを確保しました。主催地にある日本語教会として、各地からの参加者が帰る前に合同礼拝を行う事を祈っています。
- 3. 昨年AJCFを行い、州各地に離散した日本語クリスチャン達が一つになって主を賛美しました。今年は昨年参加できなかったグループも協力を表明され、会場を提供して下さるグループも起こされ、12月13日に第二回AJCFを行うことになりました。クリスマスシーズンなので、広く日系コミュニティーを誘った史上初のクリスマス・セレブレーションになりそうです。荒野アリゾナに、主の霊が流れるリバイバルが起こるようにお祈り下さい。







日本インターナショナルハーベスト教会

ミズーリ州、セントルイス

生方義憲

主の御名を賛美いたします!

いつもJCPNの働きと諸教会を覚えてのお祈りとサポートを心から感謝申し上げます。2025年の現在までのミニストリーで特に主に感謝することを短く書かせて頂きます。

まずは、イースター礼拝翌週の4月27日に1人のインド人留学生と2人の小学生がバプテスマを受けたことです。留学生のV兄は昨年度の教会のイベントを通して教会につながるようになり、熱心に礼拝とスモールグループの聖書勉強にも参加し続け、この春主イエスを受け入れる決心をし、バプテスマを受けました。また、2人の小学生は、彼女たちのお母さんがまずクリスチャンとなり、小さな時から連れられて教会に通っていました。一番上のお姉さんも一昨年バプテスマを受け、そして今度はこの2人がバプテスマを受けました。今は彼女たちのお父さんの救いのためにお祈りしています。

もう一つの感謝なことは、今年のJCPNのカンファレンスを初めて私たちの教会でホストできたことです。今まで牧師と牧師家族が中心的にJCPNの諸教会との交わりに関わってきましたが、このカンファレンスを通して、より多くのメンバーがJCPNについての理解を深め、その交わりに参加することができました。他のJCPN諸教会のメンバーの方達や先生方との交わりを通しても大きな恵みを頂きました。今から来年のカンファレンスに参加することを決めている家族もいます。また、ユースもカンファレンスに参加させて頂いて、大きな励ましを頂きました。特に高校生のK君がはっきりと信仰告白をし、救われたことは大きな喜びとなりました。また、小さな群れである私たちの教会がカンファレンスをホストすると聞いて、他のJCPNの教会の方達から励ましやさまざまな援助を申し出て下さったことが大きな励ましとなりました。

また、今回のカンファレンスにシカゴの教会からの牧師先生と神学生のご夫婦が参加されて、交わりを持つことができました。神様がどのように今後導いて下さるか分かりませんが、御心の時に、御心のタイミングでシカゴでも新たな開拓が起こされることを覚えてお祈り下さると感謝です。

そして、JCPNカンファレンス直後の6月29日は、元ヤクザの井上薫先生を特別メッセンジャーとして、私たちが18年間、礼拝場所として使わせて頂いているRock Churchとの合同2ヶ国語礼拝を持ちました。約230名の方が参加し、井上先生のメッセージを通して多くのノンクリスチャンの方が主イエスの福音の力と祝福を聞くことができました。また、この配信を沖縄でノンクリスチャンの友人と一緒に見た婦人から連絡来て、その友人が礼拝の配信を見た後に、主イエスを受け入れる決心をされたそうです。ハレルヤ!

これからもJCPNの諸教会と新規の開拓を覚えてぜひお祈りに覚えて下さると感謝です。



4月27日のバプテスマ当日の写真



6月29日の合同礼拝

デトロイト 光シティ教会

馬越牧・ソニ・麗歌

日本の皆様、

光シティ教会は始まってから約2年半が経ち、ようやく最近になって、教会らしい雰囲気になってきたような気がしています。自発的に奉仕をする人も少しずつ増えてきており、礼拝でも声に出して賛美をしてくれる人も以前より増えてきました。感謝です。私も一昔前は日曜日のメッセージの準備でストレスを覚えるようなこともありましたが、最近は、少し心に余裕ができたような気がします。牧師の仕事でメッセージ準備はほんの一部であり、多くの人と会って、イエス様の福音をいろいろな形で伝えることが大事だということにいつも気付かされています。最近、創世記の説教シリーズの中で、ノアの人生についていろいろと考えさせられました。「ノアは主の目にかなっていた」という一節に心を刺されました。ノアという人物は誰からも認められない人物でした。長い年月をかけて方舟を作るなかで、多くの人に馬鹿にされた人生だったと思います。しかし、彼は神の目にかなっていた。人の目を気にするのではなく、神の前に自分がどうなのかということをいつも考えて教会に仕えたいと思っています。

光シティ教会の賛美チームは従来、妻のソニだけでしたが、最近大きな変化がおきました。実は先日、妻のソニが体調を崩し、3週間ほど声が出ず、賛美をリードすることができなくなったのです。その間、他の人たちが前に立って助けてくれなければならない状況になり、普段は前に出ることの少ない方々が自ら立ち上がって、賛美チームを支えてくれました。今ではボーカル、ギター、エレキギター、ドラムのメンバーが加わり賑やかになりました。試練を通じて、主が賛美チームを成長させてくれたと感じております。

また、とても嬉しいニュースとして、6月1日に一人の方が洗礼を受けました。彼は光シティが始まった一番最初のメンバーであり、5年ほどの時間を経て、ようやくイエスキリストを信じる決心に至りました。本当に神様の不思議な働きに感謝します!彼の証が他の方々の心にも働きかけ、洗礼を決断するきっかけとなればと願っています。

ESLミニストリーも順調に進んでおり、毎週月曜日には30名近くの日本人が集まっています。先生の数が不足していたこともあり、今期からは私自身も英語のクラスを教え始め、とても楽しく取り組んでいます。さらに、一月より、月に一度のクラフト教室を始めました。参加者の皆さんと一緒にグリーティングカードを作ったり、持ち寄りランチを楽しんだりしながら、聖書のお話も分かち合っています。このクラスに参加された方の中から、日曜日の集まりに来てくださるようになった方もいて、とても励まされています。

アメリカに来てから早くも5年が過ぎました。自分でも信じられないほど、早く時間が過ぎたように感じます。ビザの問題をまだ抱えており、まだ日本に一時帰国ができない状態が続いていますが、今年の夏に特別な渡航許可を得て帰りたいと願っています。

お祈りの課題:

- ・ 6月に洗礼を受けた兄弟の信仰がさらに強められますように
- ・ ESLに来ているお母さんたちが福音に心を開いていきますように
- ・ 新しく加わったプレイズチームのメンバーたちが成長していけますように



私たちのためにいつもお祈りくださり本当に感謝します。イエス・キリストの恵みが皆様の上にあるように祈っています!

パロマー教会日本語バプテスト教会 (PJBC)

ハレルヤ!暖かい南カリフォルニアから主の愛を送ります。2025年は昨年に 引きつづき御国の祝福を奪い取る信仰の一歩を踏み出し続け、さらにその先 を求めるチャレンジを示され、ガラテヤ5:25から「御霊によって歩む」 というテーマが与えられました。御霊によって歩む中でたくさんの霊的チャ レンジが与えられています。まず、今年初めからシロアム教会では「新しい 教会堂」を覚えて祈り始めるように導かれました。今の教会の状況、またロ サンゼルスという状況を考えると途方もなく、非現実的な話です。その中で も、もちろん経済面での満たし、そして良い場所が与えられるようにと祈っ ていますが、何よりも私たち自身、霊的教会が御霊によって一つとなり、主 の霊的教会が築き上げられていくことを切に祈り、求め続けています。その 中で神様を求めている一人ひとりに対する霊的攻撃があることも事実で、 日々信仰生活の中でそれぞれがチャレンジを受けています。しかし、どんな 時でも主は良いお方であり、主は必ず主を求める「真の礼拝者たち」を祝福 してくださるお方であるという確信を持って祈り続けていきたいと思いま す。4月にはたくさんの兄弟姉妹が霊的戦いをしている中、GSC,PJBC合同の リトリートを行いました。「御霊に酔う」というテーマで、真の礼拝者とし て、共に主の御名を叫び、踊り喜び、祈りを捧げる時間となりました。特に リトリート中、ひたすら主を呼び求める祈りを捧げること、また互いに祈り 合うことを通して祈りの力を体験することができました。また、リトリート の直後にユースがイースター礼拝で洗礼を受けたことは私たちの大きな励ま し、慰めとなりました。彼は証の中で何度も「御霊が…」と口にしており、 御霊が教会全体を導いて下さっていることを確認できました。

二つ目の大きなチャレンジとして、GSCでは伝道のために用いられる「しろまる」という日本食レストランのビジネスが始動しました。ショーンリー兄弟、そして妻であるモニカ姉妹を筆頭に御国の拡大のために用いられるビジネスになるように祈っています。今現在、様々なプロセスが滞っており明らかな霊的攻撃を受けています。私たちは心を一つにして教会堂、そしてこの新しいビジネスは御霊によって始まり、御霊によって導かれ、御霊によって完成されると信じています。そして必ず伝道の場所として主が祝福してくださることを信じ祈り続けます。共にお祈りいただけますと幸いです。またPJBCでは、引き続きノンクリスチャンの留学生が定期的に与えられており、主の恵みに感謝する日々です。先日はサンディエゴ希望教会との合同伝道ミニストリーを行い、そこから繋がった学生が毎週礼拝に繋がっています。今与えられている学生たちは短期留学で来ている子がほとんどで、短期間での関係作りや伝道に悩むときもありますが、いつも主が憐れみを注いでくださり彼らをつなげてくださっていることに感謝します。引き続きGSC,PJBCに留学生がっながるように、また与えられている伝道ミニストリーに仕える者たちに知恵が与えられるようにお祈りいただけますと幸いです。

最後に、アメリカでGSCに繋がり救われた日本人留学生数名が、今年の夏以降日本に本帰国する予定です。彼らが「神様の塩」として日本に送り出され、日本のリバイバルのためにたくさんの種を蒔く器として用いられるように、また彼らの信仰が守られるように祈っていただけますと幸いです。

祈りの課題

- 1 GSC, PJBCが毎週「真の礼拝者」たちが満ち溢れる場となりますように。
- 2 GSCの新しい礼拝堂のために。目に見えない霊的な教会の一致のために。
- 3 PJBCにさらに新しい留学生、家族が主によって与えられるように。
- 4 留学生ミニストリー、ユースミニストリーが引き続き祝福されるように。
- 5 送り出された人々がリバイバルのため、御国の拡大のために用いられるように。



ゆいまーる石川キリスト教会

鈴木 ケン

2023年8月より礼拝を開始して早くも1年9ヶ月になります。

昨年の7月までは、アメリカ軍人クリスチャン家族5人(奥さんは日本人)と礼拝していたのですが、2024年の8月にシアトルに転勤になりました。この家族は、現在、ワシントン州タコマにあるJCPNの加盟教会JIBC Tacoma教会で礼拝を守っています。JCPN加盟教会や開拓中の集会は全米に約20ヶ所あり、メンバーがアメリカに帰国するときには、近くのJCPN加盟教会に行くのでアメリカに帰国したとしても寂しさはなく、むしろまた会えるチャンスがあるので、楽しみの一つになります。

祈り続けていた同労者が今年2月に与えられました。彼は29歳でJCPN加盟教会のごすべるシロアム教会の元メンバーで、ロサンゼルスで5年間奉仕をしており、帰国後に日本に帰って教会生活をしていました。現在、彼はJTJ宣教神学校のオンラインで学びをしています。将来は聖職者になれることを祈り毎日一生懸命勉強しています。

私達のビジョンは沖縄に住んでいるシングルマザーを中心に、伝道をする事だったのですが、 沖縄に来てわかったことは、若いお母さんや子どもたちと知り合うチャンスがなかなかない事で す。お母さんたちは昼間仕事しごとをしており、また子どもたちは幼稚園や小学校の授業を終え ると、ほとんどの子供が塾や学童保育に行っており、近所の公園や広場で遊んでいる子供がほと んどいません。

私達に小さな子供でもいれば、小学校のPTAや地元の子供会などに参加できれば、知り合いができるかもしれません。自治会の方に行って子ども会のお手伝いをしたいと言っても、先ずは敬老会やゲートボール、民謡の会に行ったらどうかという話で期待が持てません。それでも頑張ってゲートボールに3ヶ月ほど参加しましたが、皆さん私よりも高齢で、世間話もせず黙々とボールを打って楽しんでいました。そんな中、現在、日曜礼拝で使わせていただいている、沖縄医療生協の石川支部のメンバーの方と会い教会の話をしたところ、石川の町には日本基督教団の石川教会があり、5-60年まえには、日曜になると皆さん教会に行っていたとのことでした。しかし、高校生になると皆さん沖縄県外に働きに行くのでそれ以後は、教会に行くことはなくその後沖縄に戻って来ても教会には行っていないという人と何人も会いしました。

沖縄では昔、教会に行くと言う事とは、遊ぶ場所がないので日曜日は皆さん教会に行っていたようです。そのような方は、聖書の話をしても全然わかっていないようです

ーつエピソードをきかされました。医療生協の会員で一人の人が、子供の頃クリスマスの時期にクリスマス会をするから友達を沢山連れて来なさない、と教会の人から言われたとのことで、大勢の友達に声をかけ出かけたところ、こんなに沢山連れてきて、と言って怒られたそうです。それからは、教会には良い印象を持っていないとの事でした。また、同じ医療生協の女性のメンバーからも全く同じ話を聞きました。彼女も教会の人にクリスマスの時に沢山友達を連れて来るように言われ、親戚の子供(沖縄は子沢山なので)いとこや友達を連れて行ったら、教会の人に怒られたと言っていました。この二人のメンバーは友達でも親戚でもないので、怒られた時に一緒にいたわけでもないのですが、同じ話を二人の人から聞いたときにはびっくりしました。

医療生協の会員の中に87歳の女性がいてイエス様の話をしたらとても、興味を持たれました。公営の団地に孫と住んでおり、ご自分は車椅子の生活をしています。月曜日と木曜日は、ショートステイと言って養護施設に泊まりに行っています。しかし、日曜日は何も予定がないので、迎えに行くので教会に来ませんか、とは話をしたら是非行きたいとの事で4月から1回も休まず毎週礼拝に参加しています。そして、水曜日には聖書の学びも始めました。

5月21日の水曜日の学びの時に、信仰告白の話をしたら私もしますと言って、信仰告白を されました。

ハレルヤ、ゆいまーる石川キリスト教会で最初にイエス様を信じた方は、87歳の方でした。 Praise the Lord. です。

若い人への伝道を考え29歳の彼と石川体育館でピック ルボールを始めました。

日本では未だ新しいスポーツで知らない人が大勢います。現在は彼と二人で練習しながらルールを勉強しています。もう少し慣れて来たらメンバーの募集をする予定です。

最近は、不定期ですが教会に来られる方もちらほら で、これからが楽しみです。





JIBC of Tacoma教会 活動報告 2 0 2 4 年 5 月 ~ 2 0 2 5 年 4 月

- (1) 2024年7月には、長期宣教準備中の竹内Riki兄(竹内牧師の長男)と Stephanie姉の結婚式がIrvineのオンヌリ教会で行われ、8月には、JIBC of Tacomaで も、披露宴が行われました。彼らは、9月から韓国で、長期宣教の為の訓練にはいり ました。9月以降、彼らを含め、長期、短期を問わず、2家族と4人の教会員を宣教 に送り出し、現在もサポートしています。
- (2) 午後3時30分のベルビューの日曜礼拝は、Newport Hills Community Churchの小さな教室で行われていましたが、2025年3月から、広い礼拝堂で礼拝を行えるようになりました。パンデミック以降10名くらいに落ち込んでいた人数は、場所も変わって増え始めました。
- (3) 2025年3月20日(木)~31日(月) JIBC of Tacoma主催の第二回聖地旅行に、Harvest of Hopeの山本真美子宣教師の指導の下14名のチームが出かけました。今後も、メシアニックユダヤ人へのサポートととりなしの祈りを継続します。

今回は特に、メシアニックジューの伝道者で聖書学者のAriel Laurence Blumenthal 先生の講義をエルサレムで受けられたことと、4月27日(日)にツアーガイドの Alex Radiev兄弟が、ベルビューの日曜礼拝に来られて、説教をして下さると言う恵 みにあずかりました。





祈りの課題

- (1) 中東方面への宣教師家族をサポートすると同時に、同方面へ の短期宣教旅行に教会員も参加して協力できるように。
- (2) 小さなお子様を持つお母さま方と子供達へのアウトリーチを 強化できるように。
 - (3) ユースミニスリーの働き人が、さらに与えられるように。

サンディエゴ希望教会ニュースレター報告(2025年)

主の御名を賛美いたします。

2024年4月、第一回目の主日礼拝をもって、新しい日本語教会『サンディエゴ希望教会』が誕生しました。礼拝はサンディエゴ市の中心部、アジアンストリートにも近いアクセスの良い便利な場所で行っており、多くの方々にとって通いやすいロケーションとなっています。

礼拝の開始以来、出席者数には波があるものの、平均して毎週15名ほどの方々が集っています。特別礼拝やイベントの際には、普段は来られない方々も多く参加され、特に今年4月に行われた一周年記念礼拝には、他教会や他地域からも多くの方々が訪れ、約90名の出席がありました。教会の枠を越えて一つとなり、共に主を礼拝できたこの恵みの時は、私たちにとって大きな励ましとなりました。

教会としては、より広い世代や家族層に届いていくために、「毎週のバイリンガル礼拝」と「子ども向けのサンデースクール」の必要性を強く感じてきました。感謝なことに、今年4月からはサンデースクールを開始することができ、さらにAIを活用したリアルタイム通訳の試みもスタートしています。どちらもまだ始まったばかりですが、今後、子ども連れのご家族や、日本人以外のご家庭にも開かれた教会として用いられていくことを期待しています。

また、現地の日本人留学生との出会いも与えられ、交流の機会が少しずつ増えています。自宅に招いたり、集まりを持ったりする中で、温かい交わりが築かれていますが、移動手段の問題などから、実際に教会へ誘うことには課題もあります。これからも、彼らとの関係が深まり、福音に触れる機会へとつながっていくことを祈り求めています。

個人的には、2023年夏に夫婦でサンディエゴに移住し、教会開拓を始めて以来、まずは地域社会との関わりを第一に、日本人の集まりやイベント、ボランティアを通じて、個人的なつながりが広がっていきました。教会には関心のない方が大半ではありましたが、そうした関係性の中から、これまでに多くの未信者の方々が礼拝に足を運んでくださっています。こうした働きを通して、少しずつではありますが、サンディエゴの地域社会において「希望教会」の存在も認知されつつあります。地域に根ざす教会としての歩みが始まっていることを実感しています。

継続して来会されたり、信仰に導かれたりという段階にはまだ至っていない方がほとんどですが、神様が一人ひとりの心に確かに働いてくださっていると信じています。

今後のステップとしては、「教会のメンバーシップの確立」を通して、信仰にコミットし合い、キリストの弟子として共に成長していく"キリストのからだ"としての教会を建て上げていくことを目指しています。皆さまのお祈りを心より感謝申し上げます。これからもサンディエゴ希望教会の歩みのために、どうぞ変わらぬお祈りをよろしくお願いいたします。

感謝して

林 雄司









小西健二・章子

Howdyみなさん、こんにちは。あつ一いテキサスから、あつーいキリストの愛を込めてお伝えしますのは、わたくし、牧師の小西健二と家内の章子です。

エマオ途上の弟子たちが、イエスと共に歩き、イエスの語る聖書の言葉によ って心が燃やされました。彼らは言いました。「道々お話くださった時、聖書 を解き明かしてくださった時、お互いの心が内で燃えたではないか!」心が 燃える!?何と素晴らしい言葉でしょう。実は、私には、共に話していると 心が燃えてくるという人がいます。それが家内です。共に神学校を卒業し共 に教役者として遣わされ、その頃から語り合い祈りあってきました。読んだ 聖書の御言葉から受けた感動や発見を分かち合う時、嬉々として語る姿に私 も燃やされ、また私も聖書から新たに語られたことを家内に分かち合う時、 心が燃えてくるのです。この語り合いの中から説教が生まれてくることもあ ります。教会の中でそんなスモールグループをぜひ作りたいと願っていま す。名付けて「道々クラブ」(?) 小グループから、いや、むしろ小グループ からがいいと思っています。イエスの弟子たちも一握りの人々であり、いつ の時代にもリバイバルは僅かな人たちから始まったのですから。 さて、私達の教会では、大切にしているものがあります。それは「キリスト につながること」「聖書の上に立つこと」そして「祈ること」です。御子キリ ストご自身にこそ希望があり、イエスの名にこそ、あらゆる問題解決の鍵が あるからです。現在、教会として聖書通読をしていますが、神の御言葉を、 知識、教養として読むのではなく、額面通り信じる「信仰」で読むこと(い や、聞くこと)を大切にしています。読みながらアーメンと言うくらいに。 聖書の言葉にチャレンジし「アーメン」と言い、主の御業を見させて頂き、 それをお互いにシェアーする。そしてお互いに信仰的に燃やされる。それを 年頭に語りました。祈りはいつまで?見るまで!得るまで!。



この一年も素晴らしい証がありました。絶えず祈れ! のお言葉にチャレンジを受け、どんな時にも、どんな 事にも祈るよう促され、祈ってきました。主は祈りに 応え、奇跡を起こされました。歩けない程の腰の痛み が祈った瞬間癒された。またその時、祈りの場にいた 人も癒しを体験。耳が聞こえなくなり、医者から治ら ないと宣告された人のために祈った。祈ったその日、 わずかに聴こえるようになり、続けて祈っていったと ころ、90%以上聴こえるようになった。ハレルヤ!本 当に主を恐れました。我らの主は生きておられる!教 会として金曜日は断食祈祷の日とし、祈っています。 主は今年、青年の素晴らしい救いとバプテスマも起こ されました。また日本に一時帰国された方々も素晴ら しい働きをされました。友人知人、親戚に出会い、そ こで証をし福音を語られました。反応は様々で「自分 はクリスチャンではないので、信じない」「信じられ ない」「どうせ自分は地獄に行く」などなどですが、 撒かれた種がやがて芽が出るよう祈ります。またノン クリスチャンの親をアメリカに連れてきて、日曜日に 教会に連れてきてくださる方もおられます。主のなさ れる御業に感謝し、そのことの故に主の御名を崇めま す。ハレルーヤ!

皆さまの、あつーいお祈りをお願い致します。God bless y 'all!



オーランド日本語インターナショナル教会

高岡宏光・恵

2012年の開拓開始から13年目を迎えた私たちの教会ですが、こ の7月8月、牧師は初めてのサバティカル休暇をいただいていま す。霊肉両面において態勢の立て直しの必要を感じていたとこ ろ、しばらくの時、奉仕を離れ、静まり休養する時が与えられた ことをとても感謝しています。教会の方ですが、聖日の教会学校 と礼拝に加え、火曜日、水曜日、木曜日の夕べに、いずれもオン ラインでスモールグループが行われています(火・水=日本語、 木=英語)。また、月に一度、伝道にフォーカスした対面でのス モールグループ「Good News」も行われています。火曜日のス モールグループは、かつて日本で宣教師をされていた方が導いて くださり、水曜日と木曜日のスモールグループ、ならびに、Good Newsは、火曜日のスモールグループで学んだ信徒の方たちが始め てくださいました。現在5名前後の求道者の方が与えられている のですが、もう一歩進んでバプテスマを受ける方が起こされない のはなぜだろうと考える中で、私たちの教会がもっと祈りの群れ として立っていく必要があるのではないかということを示されて います。「あなたがたのうちの二人が、どんなことでも地上で心 を一つにして祈るなら、天におられるわたしの父はそれをかなえ てくださいます。」(マタイ18:18) イエス様がここで教えてく ださっている祈りを実現しようとするならば、ともに祈ってくだ さる誰かを必要とします。ですから、この「ともに祈る祈り」が 深められていく時、私たちは、互いの存在を尊び、感謝する、と いうこと、すなわち、互いに愛し合う、ということがごく自然に 実践されるのではないか、そして、そのような交わりは、人を惹 きつけるのではないか、つまり、宣教の領域をもカバーするので はないか、ということを示されています。ペンテコステ直前の信 徒の群れの様子も、「彼らはみな…いつも心を一つにして祈って いた。」(使徒1:14)と記されています。以上のようなことを年 初の礼拝メッセージで申し上げ、「私たちはもっと祈りの群れと して立っていく必要があります。さもなければ、前進はありませ ん」と呼び掛けました。また、礼拝後に祈りのひとときを持つこ と、並びに、第3聖日の礼拝後に「宣教祈祷会」という名称で祈祷 会を開始しています。私たちが、ともに祈る祈りを通して、神様 の御業を目撃していくことができますよう、どうぞお祈りくださ

リンウッド日本人ファミリー教会

金田豪

LJFCではこの2年間で4人の赤ちゃんが産まれました。これまで小さな子供がいなかったので、日曜学校もなかったLJFCですが、今年からナーサリーをスタートしました。もう少ししたら子供向けの日曜学校も必要になってくるでしょう。奉仕できる人数が限られている中で、ミニストリーの必要が増えるのは悩みでもありますが、子供たちを神様の愛とみことばで育てると言う大きな祝福のステージに向かって一歩ずつ進んでいます。

学生ミニストリーも続けていますが、Z世代はこれまでの方法ではなかなか飛びついて来てくれず、戸惑っていますが、焦らず、神様の知恵を求めつつ、できる方法で神様の愛を伝えています。

6月には元ヤクザの井上薫先生ご夫妻が来てくださいました。土曜日にはリーダーとの朝食、熟年会の交わり、ピザを囲んでの証の時、と一日中奉仕してくださり、日曜日には普段の倍の四十人近くが礼拝に来られました。日本から旅行で来られていて初めて教会に来られたSさんがイエス様を信じ、その週に洗礼を受けられ、帰国されると言う神様からの素晴らしいプレゼントまであった、祝福の時でした。

大きなリバイバルのような出来事こそありませんが、神様が日々働き、LJFCを用いてくださっているのがあちこちで見られ、感謝が尽きません。





「真珠湾を望む丘の上の教会から」

パールシティ第一バプテスト教会・日本語部



石渡敬子

アロハ!ハワイ・オアフ島、「真珠湾を望む丘の上の教会」パールシティ第一バプテスト教会日本語部より、近況をご報告いたします。

私たちは、従来通り、毎週日曜日午前に日本語礼拝とサンデースクールを続けて行っています。

しばらくの間、パールシティ日本語礼拝では、私ひとりで礼拝の賛美リードと奏楽を担ってきましたが、なんと最近、バイリンガルの女性ギタリストが奉仕者として加えられ、"Two Women Band"が誕生しました!仲間と共に賛美リードできる恵みにパールシティでもあずかれるようになり、心から感謝しています。ハレルヤ!さらに嬉しいニュースは、教会の駐車場にピックルボールコートが完成したことです。これまでも英語部では、ピックルボールミニストリーが月に一度行われていましたが、ラインはチョークで引いていました。

このコートを活用しながら、日本語でのピックルボールミニストリーの展開を祈り求めています。スポーツを通して心が開かれ、福音が自然に分かち合われるような交わりの場を、神様が整えてくださるよう願っています。

また、ワイキキバプテスト教会における日本語礼拝も、引き続き日曜日午後4時から行われています。こちらはFacebookライブでも配信していますので、ぜひご覧ください。 \rightarrow www.facebook.com/fbcpearlcityjsc

【祈りのリクエスト】

- 日本語礼拝を通して、キリストとの出会いが与えられるように
- ピックルボールミニストリーが福音宣教の新たな機会となるように
- 奉仕者がさらに起こされ、多世代にわたる信仰継承が進むように 神様の豊かな恵みに支えられながら、これからもこの地における日本語宣教の働き を続けてまいります。皆さまのお祈りに、心より感謝いたします。



ポートランドJIBC

ミチ横井

いつもお祈りに覚えてくださり、心より感謝申し上げます。

私たちJIBCポートランドでは、2024年の年間標語を「はちみつのように(御言葉は)甘い」と掲げ、教会員に聖書通読を積極的に勧めてまいりました。その結果、年末までに30名以上の方々が聖書を通読されるという恵みにあずかりました。



また、2024年は「インターナショナル」な特色がこれまで以上に色濃く表れた一年でもありました。毎年、9:30と11:00の礼拝時間を日本語と英語で交互に入れ替えておりますが、今年は11:00が英語礼拝となったため、英語を主に用いる方々にとって来やすい環境が整いました。一方で、日本語の方々には不便になるとの懸念もありましたが、「9:30だからこそ礼拝に来られる」という駐在の方々も与えられ、神様のご配慮を実感しました。

初代教会においても課題であった「特定の民族(この場合はユダヤ人)に注視しつつも、福音は すべての民族に平等に与えられている」というテーマに、アメリカにある日本人教会として向き 合い、実践に努めています。



日本宣教では、1月にHope Japan災害支援チームを能登半島へ派遣したことからスタートしました。さらに3月と12月にも支援チームを再度送りました。これらを通して生まれた繋がりは、今(2025年7月)も続いており、今年の冬にも再訪を計画中です。

2月には、教会設立35周年記念をお祝いしました。マイク全主任牧師をはじめ、現在もご健在な設立メンバーの方々から証をお聞きし、神様の恵みと憐れみを200名以上の方々と共に振り返る、感謝と喜びに満ちた時となりました。

昨年ご報告させていただいた世界宣教の拡大においては、ケニアへの初の宣教チーム派遣が実現しました。さらに10月にはウクライナへ支援チームを派遣し、現地の方々に福音と励ましを届ける貴重な機会をいただきました。

一年を通じて、ゲスト講師として熊本から中村陽志先生、ミシガン州デトロイトからトラビス・ ウィティカー先生、イスラエルからデービッド・トゥルベック先生をお迎えし、国際色豊かなメ ッセージをいただきました。

6月には、ポートランドでJCPNカンファレンスを主催させて いただき、多くの恵みと祝福をいただきました。

また、ベビーブームも続いており、新しい命がいくつも与えられました。若者たちとヤングファミリーの数も増えています。

日本のため、そして世界宣教のために、これからも「イエス様に従って」(2025年の年間標語)まいります。今後とも変わらぬお祈りとご支援をよろしくお願いします。



ユージーン日本語バプテスト教会 (Eugene Japanese Baptist Church - EJBC)

ユージーン日本語バプテスト教会 (Eugene Japanese Baptist Church - EJBC)は、今年で20周年を迎えました! 現在、毎週日曜日の礼拝には平均して17~21人が出席しています。特別ゲストをお招きしたり、特別なイベントの際にはもっと多くの方が参加しています。

この一年で、地域の子どもたちに向けたユースグループを新たに立ち上げました。現在、地域の9人の子どもたちが参加しています。そのうちEJBCに通っているのが2人、別の2人はEJBCのホスト教会であるリビエラ・バプテスト教会の子ども達です。

今年のハイライトの一つは、地元の日本語イマージョン・スクールからの日本人留学生やインターン生が多く教会に来てくれたことでした。特に感動的だったのは、一人の大学生が礼拝の中で公にイエス・キリストを救い主として受け入れたことです。主は本当にこの教会を誠実に導いてくださっています。 これからも主を忠実に礼拝し、主にあって成長しながら、日本人への宣教に励んでいけることを楽しみにしています!

写真は6月19日に井上牧師ご夫妻をゲストスピーカーとしてお迎えした時のものです。



【やすらぎキリスト教会】

ハレルヤ。主に感謝して私どもの教会の働きをお 話させていただきます。嬉しい報告が続きまし た。まずは2024年秋、ドジャース人気で盛り上が る中、なんと私たちの教会にJIBCフェニックスか らあいちゃんが来てくれました。そしてJIBCの人 たち数名が、あいちゃんをお見送りにLAに車で来 てくれました。到着した日は、長旅にも関わら ず、みんなで福音館でドジャース戦をみて盛り上 がることができました。大谷が画面に映るとスク ワットジャンプをする八十先生家族の謎の儀式も しつつ楽しい交わりの時間を持つことができまし た。また、クリスマス時期には、横井マイク牧師 も福音館を訪れてくださり、主日のメッセージも してくれました。ちょうど南加日系合唱コーラス の方たちのコンサートもあり、大変恵まれた時間 を過ごすことができ感謝でした。





そして、2025年イースター礼拝には、パンデミック以来、膝の具合が悪くなかなか教会に来れないでいたトニー兄弟が福音館に来ることができ久しぶりの再会を喜ぶことができました。まだ、毎週来れるような体ではないので、引き続き体の癒しと回復を祈っているところです。

7月には、やすらぎ幼稚園10周年を記念した夕涼み会を盛大に行いました。例年にはない、ピザ窯を使ったピザや、炭焼きの焼き鳥など豪華な食事や抽選会、コンサートなどで盛り上がることができました。幼稚園をサポートしてくれる日経企業の方たちからのドネーションも沢山あり感謝でした。イエス様の愛に満ちた幼稚園として今後ともサポートしてくださるようお祈りします。

今後の教会の働きとして、次世代の子たちがたてられイエス様の働きをしていってほしいという思いが与えられ、今までなかったサンデースクールを始めました。人数は少ないですが、少しづつ種まきをしていこうと思っております。この前は、幼稚園に通う子が教会に遊びに来てくれました。



今後もこのように幼稚園の子たち、その家族の人たちが救われていければと思います。ただ、今幼稚園で働いている職員でクリスチャンの方は3名しかいないので、クリスチャンの保育士が来てくれるようまた、今働いてくれているノンクリスチャンの職員が主を受け入れてくれるよう祈っております。そして、幼稚園で働く人全員が救われ、イエス様の愛を子どもたちに伝えることができるよう用いられていければいいなと思います。今後とも、やすらぎキリスト教会、幼稚園、福音館が主の為の働きを行っていけるよう正しい信仰をもって歩んでいきたいです。

編集後記(JCPN日本支部)

おけんでは、 を選れていれば、 を選れていれば、 を選れるは、 を主にいれば、 を主にいれば、 を主にいれば、 のはいれば、 のはいいのおが、 をいいのおが、 をいいのおが、 をいいのおが、 をいいのおが、 をいいのないが、 にいたではまままた。 は手だといいではままた。 本はいるといいではままた。 をではないのえるのである。 本はいるといいのない。 をではいいたにたでいる。 ないたにたでいる。 ないたにたでいる。 ないたにたでいる。 ないたにたでがよる。 ないたにたでいる。 ないたにたでいる。 ないたにたでいる。 ないたにたでいる。 ないたにたでいる。 ないたにたではままた。 ないたにたでいる。 ないたにたではままた。 ないたにたでいる。 ないたにたではままた。 ないたにたでいる。 ないにない。 はいい。 はいいい。 はいい。 はいい。 はいい。 はいい。 はいい。 はいいい。 はいいい。 はいい。 はいい。 はいい。 はいい。 はいい。 はいい。 はい

また、ニュースレターはEメールで配信することもできます。ご希望の方は下記連絡先までご一報いただければ感謝でございます。

2 0 2 5 年 8 月

J C P N 日 本 支 部 事 務 局 代 表 責 任 者 高 木 康 俊 ス タ ッ フ 一 同

〒174-0046 東京都板橋区蓮根2-31-10 電話: 03-3967-1798

E × - »: has une.b.c@gmail.com http://has unebaptistchurch.com/

JCPN日本支部の活動報告

日本支部は東京都板橋区にある蓮根バプテスト教会がJCPN日本支部事務局を兼務。

年に一回、JCPNニュースレターを発行し、JCPNの教会とJCPN支援会の皆様及び日本全国の諸教会にJCPNニュースレターを届けてJCPNの諸活動を教会の伝え続けています。

JCPNから日本に帰国した方々へのフォロー活動。

JCPNの牧師の日本国内での活動の支援。(JCPNの牧師の日本国内での宣教活動の支援。集会会場の提供など)

沖縄ゆいまーる石川キリスト教会への教会開拓支援(経済的支援・伝道チーム派遣など)

J C P N 日 本 支 部 2 0 2 4 年 1 ~ 1 2 月 会 計 報 告 (収入) (支出) (差 引 残 高) 1,222,402 268,840 953,562 (円)

JCPN日本支部 2 0 2 5 年 1 ~ 5 月 会 計 報 告 (収入) (支出) (差 引 残 高) 1,115,469 37,783 1,077,686 (円)

日本に帰国される方でJCPN日本支部や蓮根教会で奉仕を希望される方がおられましたら、ぜひご紹介ください。

JCPN日本支部 (蓮根教会内)



JCPN 加盟教会 (2025年8月現在)

- ・日本インターナショナルバプテスト教会(オレゴン州ポートランド)
- ・日本インターナショナルバプテスト教会(アリゾナ州フェニックス)
- ・日本インターナショナルバプテスト教会(ワシントン州タコマ、ベルビュー)
- ごすぺるシロアム教会 (カリフォルニア州パサデナ)
- パロマ日本人バプテスト教会 (カリフォルニア州エスコンディード)
- リンウッド日本人ファミリー教会(ワシントン州リンウッド)
- ・日本インターナショナルハーベスト教会(ミズーリ州セントルイス)
- ・日本ホープマウンテンファミリー教会(コロラド州デンバー)
- オーランド日本語バプテスト教会 (フロリダ州オーランド)
- ・ パ ール シ ティ 第 一 バ プ テ ス ト 教 会 日 本 語 部 (ハ ワ イ 州 パ ー ル シ ティ)
- ・ ユージーン日本語バプテスト教会 (オレゴン州ユージーン)
- ・ピッツバーグ国際日本語教会(ペンシルベニア州ピッツバーグ)
- ・日本恵みインターナショナル教会(テキサス州サンアントニオ)
- ・クロスオーバー日本人教会(カナダ・カルガリー)
- やすらぎキリスト教会 (カリフォルニア州ガーデナー)
- ・ 光 シティ 教 会 (ミ シガン 州 デトロイト)
- ・ゆいまーる石川キリスト教会(日本・沖縄)
- サンディエゴ希望教会 (カリフォルニア州サンディエゴ)
- サンホゼバプテスト教会 (カリフォルニア州サンホゼ)
- ・ バ ンク ーバ ー 日 系 人 聖 書 教 会 (カナダ・バンクーバー)



Japanese Church Planting Network
120 Japanese Churches by 2020